

「自然体験活動指導者養成研修（全体指導者）」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
35	17	17	前半 14（滋賀 3 京都 3 愛知 2 岐阜 1 奈良 1 富山 1） 後半 12（福井 5 滋賀 3 愛知 2 京都 1 奈良 1）

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・「小学校の1週間の自然体験活動」において、教育効果の高い自然体験・生活体験の機会を提供するためにプログラム計画立案の助言、活動時の全体指導や活動の様子の把握と助言、事業評価の助言等を行う指導者を養成する。
- ・自然体験活動指導に必要な知識他技能、および研修会のノウハウについて公立施設等に発信していく。

◆期日・期間

前半：2012年9月 8日（土）～ 2012年9月 9日（日） 1泊 2日
 後半：2012年9月21日（金）～ 2012年9月23日（日） 2泊 3日

◆後援・協力団体

福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会

◆参加者分析

- ・分割開催としたため、全日程参加できる社会人が減少した。
- ・当自然の家で活躍している佛教大学からは、日程の都合が合わず参加がなかったことも全体の参加者減につながってしまった。
- ・参加者の意識は大変高く、それぞれが直面する課題やニーズを持ち受講していた。

◆企画のポイント

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
9月8日（土）						希望者昼食	受付	開講式	実習D 「自然体験活動の技術」（スノーケリング）			夕食	実習F 「安全管理」（救命救急）			入浴	就寝
9月9日（日）	起床・洗面 朝のつどい 清掃	朝食	実習D 「自然体験活動の技術」（シーカヤック）				昼食	講義F 「安全管理」（気象海象）		閉講式							
9月21日（金）						希望者昼食	受付	開講式	講義A 「学校教育における体験活動の意義」 講義B 「教育課程と体験活動の関連性」			夕食	講義B （つづき） 自由交歓			入浴	就寝

9月22日(土)	起床・洗面 朝のつどい 清掃	朝食 「体験活動の指導法」	昼食	演習E 「体験活動の指導法」	講義C 「プログラムの企画立案」	夕食	入浴 自由交歓	就寝
9月23日(日)	起床・洗面 朝のつどい 清掃	朝食 演習C 「プログラムの企画立案」	閉講式	希望者昼食				

講師

「学校における体験活動の意義」「教育課程と体験活動の関連性」

(株)プロジェクトアベンチャーズジャパン トレーナー 杉村 厚子氏

「救命救急講習」

若狭消防組合消防本部 救急救命士

「自然体験活動の技術」

あわしまマリンパーク 顧問 白井 芳弘氏

グランストリーム代表 大瀬 志郎氏

「安全管理」

グランストリーム代表 大瀬 志郎氏

「体験活動の指導法」「プログラムの企画立案」

シーズジャパン 関 智子氏

- ・海洋実習編と講義演習編の2部構成で分割開催した。
- ・一昨年度より継続して、「体験の向こう側にある学び」に焦点を当てて、講師同士の打合せも綿密に行い、講座間のつながりを意識して実施している。

◆運営のポイント

- ・海洋実習編と講義演習編の2部構成としたが、日程間隔によって学びが途切れないように講座間のつながりを意識して、それぞれの学びが連関するように心掛けた。
- ・例年に比べ参加者が少なかったことを逆手にとり、個人のニーズ、課題をくみ取り、講座の中に活かして講座を組み立てた。

◆安全管理のポイント

- ・海洋実習では各人の経験・体力に幅があることから、段階を踏んで負荷をあげて活動内容を拡大した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	94%	6%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	88%	12%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	100%	0%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・どの講師の先生方のお話も専門的かつわかりやすく非常に参考になりました。
- ・少人数でのプログラム進行だったので、動きやすい活動になったと思います。
- ・1人で考えては1つだけの考えだけになってしまうので、たくさんの人の意見が聞けてとてもよかったです。
- ・もっと体験活動を体験したい。来年同時期に今回作成したプログラムの実践の結果を満

ちよっての発展的研修を希望します。

- ・皆さんと意見を交わしあい、アイデアを出し合う中でプログラムができること以上に、ともに作り上げる価値を改めて感じることができました。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・参加者の実態に即した課題設定を行ったことでより具体的な事例をもとに各自が研修を深めることができ、参加者の高い満足度にもつなげることができた。
- ・2部構成としたことで内容的にはメリハリのある充実したものとなった。

(2) 課題

- ・全日程に参加できる社会人が少なく、全体の人数減に直結した。
- ・また、大学生にとって参加しにくい時期でもあったことで、今後は開催時期を再検討する必要がある。

5. 活動の様子

演習：「自然体験活動の技術（スノーケリング）」 演習：「自然体験活動の技術（シーカヤック）」



講義：「プログラムの企画立案」



演習：「プログラムの企画立案」

